

第136号 2013年2月



こんにちは
議会です!!

たが

- ・ 12月定例議会…………… 2
- ・ 常任委員会…………… 4
- ・ 予算特別委員会…………… 6
- ・ 議会改革…………… 7
- ・ 一般質問10議員が問う… 8
- ・ たがとともに…………… 16



多賀町 初 プロ野球選手誕生
東北楽天イーグルス 則本昂大選手(背番号14)

中学校技術棟大規模 工事に6,793万円

LED対応防犯灯 補助金を増額

12月定例議会

補正予算

一般会計

- 歳入の主なもの
- 国の補助金等 400万円
- 県の補助金等 279万円
- 歳出の主なもの
- 愛のりタクシー負担金 417万円
- 防犯灯設置補助金 325万円
- 個性輝くまちづくり 205万円
- コミュニティバス補助 349万円
- 各種プログラム開発 472万円
- 介護保険特別会計繰出金 532万円
- 後期高齢者医療負担金 372万円
- 住宅用太陽光発電補助 150万円

12月定例議会は、12月6日から18日までの13日間で開催した。提出された議案は、平成24年度各会計補正予算6件、条例7件、同意2件、専決処分2件、一部事務組合規約変更など7件、議会発議2件、合計26件を可決、同意・承認した。陳情1件を受理した。

水道事業会計

- 環境保全型農業交付金 570万円
- 青年就農給付金 75万円
- 緊急雇用創出推進事業 213万円
- 小学校調理備品ほか 723万円
- 空き家除去工事 1106万円
- 史跡調査関連委託工事 342万円
- 国民健康保険会計 1609万円
- 介護保険事業会計 2993万円
- 芦谷栗栖事業会計 1406万円
- 農業集落排水事業会計 27万円
- 管網整備(水道管改良) 1000万円

条例

- 林業基盤整備用機械および格納庫設置条例の廃止
- 昭和38年に山村振興対策事業で、ブルドーザーと格納庫を整備して事業を進めてきた。24年8月に老朽化したブルドーザーを廃止し、格納庫を解体した。
- 下水道条例の一部改正
- これまで法令で定められていた構造の技術上の基準などの一部について、条例に委任された。
- 非常勤職員の公務災害補償に関する条例の一部改正

同意

- 証人などの実費弁償に関する条例の一部改正
- 暴力団排除条例の一部改正
- 固定資産評価審査委員の選任
- 多賀 竹内 幸雄氏 65歳
- 富之尾 坂上 定男氏 67歳

専決処分

- 平成24年度一般会計補正予算(専第10号)
- 庁舎改修工事(ボイラー改修) 535万円
- 文化財調査費用(遺跡発掘) 2383万円
- 平成24年度一般会計補正予算(専第11号)
- 衆議院議員選挙費 798万円

規約の変更

- 滋賀県自治会館管理組合規約の変更
- 同組合の解散に関する議決
- 同組合の財産処分に関する議決
- 市町村職員退職手当組合規約の変更

請負契約

- 庁舎耐震補強工事の請負契約議決変更 800万円
- 中学校技術棟耐震大規模工事請負契約 6793万円

議会発議

- 議会委員会条例の一部改正

陳情

平成25年度農業施策と予算に関する要望書 多賀町農業委員会 会長 西倉 進一氏

より町長に建議をされ、議会にも陳情された。



中川原工業団地 遺跡発掘調査



門前町デイセンター



太陽光パネルの防犯灯

総務

国保税の収納率は 県下1位

総務常任委員会は、12月10日、本会議において付託された平成24年度特別会計補正予算2件を審査し、可決すべきものとした。

国民健康保険特別会計の補正
国、県と社会保険診療報酬支払基金の交付金などが決定したことにより補正するもので、既定の歳入歳出予算総額に、歳入歳出それぞれ1609万円を追加し、8億2187万円とする。

問 予防対策を考えると、一部の高額医療費をより少なくすることも必要では。
答 国保、福祉のほか教育も含めて、病気になるための健康づくりが必要になってきている。

問 国保の広域化は、国保税の額が県下で2番目に低く、国保税の収納率が県下で1位の本町にとって、どのような影響を受けるか。
答 広域化は、財政的にも経費が少なくて済み、メリットはある。また、本町は一人当たりの医療費の給付額は多くなっている。

問 介護給付費の増加見込による追加補正で、既定の歳入歳出予算総額に、歳入歳出それぞれ2993万円を追加し、7億5237万円とする。

問 介護給付費の中で一番多いのが居宅サービスか。
答 当初予算が2億7000万円、今回も1400万円を追加するもので、大きな額となっている。

問 介護給付費の増加見込による追加補正で、既定の歳入歳出予算総額に、歳入歳出それぞれ2993万円を追加し、7億5237万円とする。

利用者数は約400人で横ばいであるが、居宅サービスも含め増えている。

問 介護サービスを受けている人数は。
答 24年11月審査分の件数で居宅介護508件、地域密着型介護20件、施設介護77件である。認定者数が約400人のうち、ケアプラン作成者数は要介護215件、要支援56件であり、約260名がサービスを受けている。

問 社会福祉協議会への財政支援と事業の運営などの関わりは。
答 社協へは、人件費、事務費の全額を支援している。また社協は一般事業と介護保険事業とに区別して行っている。

問 社会福祉協議会への財政支援と事業の運営などの関わりは。
答 社協へは、人件費、事務費の全額を支援している。また社協は一般事業と介護保険事業とに区別して行っている。

産業建設常任委員会は、12月11日、本会議において付託された条例3件、平成24年度補正予算2件を審査し、可決すべきものとした。

林業基盤整備用機械および格納庫設置条例の廃止
林業基盤整備用機械および格納庫設置条例の廃止
格の確認は地域整備課で行う予定

問 今後は、林業施策において格納庫を設置したり、ブルドーザーを購入することはしないか。
答 これまで営林組合が管理していたもので、町としても林道管理にブルドーザーを購入することはない。

問 景観整備事業とは、どのような事業か。
答 水谷地区の景観を残すための家屋の外観整備で、一戸当たり100万円を限度に交付している。

問 技術上の監督業務を行う者の資格を有する者とは、どのような者なのか。
答 一定の経験などの要件

問 栗栖のコミュニティ施設を減額した理由は。
答 地域介護・福祉空間整備事業交付金の増額に

問 一定の経験などの要件

町と地元負担が減少する。

閉会中の継続調査



かいぜ寮の視察

11月12日、障害者自立支援施設のかいぜ寮（彦根市海瀬町）と杉の子作業所（多賀町）の現地視察を行った。また視察後は、福祉施策の経緯、障害者自立支援事業の現状と、本年4月施行の総合支援法について説明を受けた。

かいぜ寮

社会福祉法人かすみ会が運営し、平成3年に開設
施設入所支援、生活介護に54名、短期入所5名、日中一時支援4名が入所
杉の子作業所
平成16年に知的障害者通所授産施設として開設
内容は、平成20年に生活介護、就労移行支援、就労継続B型を行う体系に移行した。

障害者総合支援法
24年6月に、地域社会における共生の実現に向けて新たな障害者福祉施策を講じるための法律が成立し、25年4月1日施行
新法の概要
障害者の適用範囲や利用エリア、サービスの見直しなど、重度訪問介護の対象拡大、共同生活介護のグループ二元化など。

閉会中の継続調査



町道久徳中川線の視察

11月13日、地域整備課所管の平成24年度事業と、平成23年度からの繰越事業などの進捗状況を調査するため委員会を開催した。

平成23年度からの繰越事業
道路改良事業
町道久徳中川線では、橋梁の見直しがあり、用地取得が必要となった。
一部25年度に繰越予定となる。

町道小森池線は、残土処分が一部残っている。
町道多賀第2工業団地線は完了している。
上水道事業
仏ヶ後浄水場新設工事は、年度内完了予定
平成24年度事業
橋梁長寿命化事業
大君ヶ畑地先2橋は、

工事発注済で年度内完了予定
榑崎地先1橋は、工事発注済で年度内完了予定
上水道事業
大君ヶ畑地区配水管敷設置工事は、年度内完了予定
多賀地区配水管敷設置工事は、一部25年度に繰越予定となる。
地籍調査事業
富之尾地区の地籍調査は、委託業務を発注済で、地元との協議中。25年度に繰越予定

水谷地区の住宅改修は ほぼ完了

産建

予算特別委員会

予算特別委員会は、12月6日、本会議において付託された一般会計補正予算（第4号）の審査を行い、可決すべきものとした。

ダム対策特別委員会

ダム対策特別委員会は、12月18日、芹谷栗栖地域振興事業の進捗状況と、議会の平成25年度重要望などについて、県芹谷地域振興事務所長と協議を行った。

空き家解体工事(水谷地区)に1,100万円 社会資本整備交付金を活用

- 質疑の主なもの
- 問** 水谷地区の空き家対策で、約1100万円を補正しているが、何人が対象か。
- 答** 所有者5人が対象
- 問** 空き家を町に移管して事業を行うのか。
- 答** 建物は町に寄付され町が解体する。土地は地域の目的に沿って活用し、借用期間は10年である。
- 問** 空き家とは、居住していた家屋だけを意味するのか。
- 答** 倉庫、小屋も含む。
- 問** 水谷地区以外にも同様か。
- 問** 一般地域も補助限度額50万円、建物すべて補助対象となる。
- 問** 緊急雇用創出特別推進事業の補正内容は。
- 答** 防火水槽、消火栓、防犯灯など1000ヶ所の位置情報をGIS入力するため民間に委託する。
- 問** どのような活用があるのか。
- 答** 消防、防災施設の管理を行うもので、所在、位置関係など把握できる。
- 問** 事業規模は。
- 答** 全体で860万円
- 問** 国の税制改正により生命保険料の控除額などが変更となり、プログラム開発委託料として補正されているが、国からの補助などはないのか。
- 答** すべて自治体の負担
- 問** 太陽光発電設備など導入における補正の件数は。
- 答** 太陽光発電など12件で減額した理由は。
- 答** 地元協議で設計仕様が変わり65万円で済んだ
- 問** 藤瀬地区の排水路工事に係る地元負担金は1/3であるが、官民境界にかかる費用分も1/3の負担か。
- 答** 工事費は1/3で、測量設計費は地元負担はない。
- 問** 獣害の柵の設置に関し、地域に費用対効果を聞き歩いているのか。
- 答** 電気柵だけでなく、いずれの事業も費用対効果は必要と考えている。
- 問** 農業施策で費用対効果を言われると、山間地域の農業は何もできないのでは。
- 答** 電気柵などは国庫補助で積極的に進めた。獣害対策に限らず、今後も効果を検証していく。

主な事業の進捗

- ・ 家屋改修支援
- ・ 集会所整備（上水谷）
- ・ 合併処理浄化槽設置、集落景観保全事業は1戸を12月14日棟上げ（3月末完）
- ・ 集会所整備（栗栖）
- ・ 残し完了予定（県の砂防工事中に基礎工事完了）
- ・ 急傾斜地崩壊対策（下水谷）
- ・ 空き家住宅等除去支援
- ・ 擁壁工、落石防護柵、法面工など完了

議会から県への要望

芹谷ダムの建設を中止した県は、これまで翻弄され続けてきた芹谷地域住民の意見、要望を率直に受け止め、生活再建に最大限の支援をすること。芹谷地域は、過疎化と住民の高齢化が進む中、社会資本整備が遅れている。県道の改良、河川の土砂の除去、急傾斜崩壊対策など速やかに完了すること。ダム中止にともなう芹川治水の代替案を早急に示すこと。

議会改革

全員協議会は、11月21日、地方自治法の改正内容と、その改正事項の政務活動について協議、研究した。

地方分権に拍車

24年8月に地方自治法の一部が改正された。今回の改正は、地方公共団体の議会および長による適切な権限の行使を確保するとともに、住民自治の更なる充実を図るためのものである。

地域のことは地域に住む住民が決め、自らの暮らす地域の未来に責任を持つという、住民主体の新しい発想（地方分権改革）を追求していくものである。

その改正の中で、地方議会関係では、議会の会期と臨時会の招集権、議会運営、議会の調査権、政務活動費など多岐にわたる内容である。

これらは、いずれもが地域の自主性と自立性を高める地方分権の考え方によるものである。多賀町議会では、かね

てから議会改革に取り組み、24年の2月には、その考え方を中間報告としてまとめ、情報を共有化し、研修会にも積極的に参加して協議、研究してきた。

今回の地方自治法の改正を機に、その趣旨にのっとり、その制度化を図るため、改正項目を集中的に議論し、高い目的意識をもって取り組まなければならない。

全員協議会では、改正事項の中から議員の政務活動費の項目を採りあげ意見交換を行った。

政務活動費とは

今回の改正で、政務調査費は政務活動費と名称が変更され、また使途の範囲も、これまでの調査研究のための費用だけではなく、議員活動にも広げることが可能となった。政務調査費は、平成12

年に地方議会の活性化を図ることを目的に、議員の調査研究に資するため必要な経費の一部として認められた。

その要件は条例で定められることになった。しかし、多賀町議会は、政務調査費の制度化がなされていないため、現在条例もない。

議会改革は、議会基本条例を作成して、何を現実するかを協議して進めていくのが通常である。多賀町議会では、まず政務活動費に焦点を絞ることの制度化を図ることの

今後も全員協議会で継続協議

今後も意見調整して、他の議会改革の分野や議員の意識改革も含めて、全員協議会で協議することにした。

議会の活性化を図る 政務活動



彦根・愛知・犬上 議会議長会 議会改革研修会

自治会活動の向上に向けて建設中の集会所(上水谷)

町政を問う

議会を傍聴してください!

3月定例議会は、3月5日(火)から22日(金)まで開催。一般質問日は3月21日(木)の予定です。

12月定例会では10人の議員が登壇し、町政の将来を見据えて、一般質問を行った。

- 1 北川 久二議員…………… P 9
若者定住支援対策の状況は
各集落の防犯灯のLED化は
- 2 富永 勉議員…………… P 9
工業団地の整備に係る県負担は
- 3 原田 亀雄議員…………… P 10
次年度予算の編成方針と重点施策は
学校トイレ環境の整備を
- 4 山口 久男議員…………… P 11
空き家の活用と管理方法は
愛のリタクシーの見直しは
水道施設の耐震化は
- 5 菅森 照雄議員…………… P 11
県道多賀醒ヶ井線の整備は
- 6 川岸 真喜議員…………… P 12
愛のリタクシー料金は妥当か
介護予防教室の参加費を無料に
避難経路をバリアフリーに
山間集落の獣害対策は
林道上山線の安全対策は
- 7 竹内 薫議員…………… P 13
コンピュータシステムの見直しを
文化・スポーツ施設の無料化を
- 8 田畑 喜久弘議員…………… P 13
芹川の堆積物の除去は
国道306号の開通は
今後の水谷彦根線の見直しは
四ッ谷の通学路は
- 9 深田 治夫議員…………… P 14
備品購入は町内業者を優先に
新採職員の現場研修を
インフルエンザ予防の助成は
急傾斜地の雪崩防止を
スポーツ表彰の基準は
- 10 土田 一善議員…………… P 15
交通安全標識の設置は
町道補修を
給食に家庭弁当の日を
冬季の除雪対策は万全か
猫の糞の処分対策は

若者定住支援対策の状況は —企画課長— 住宅建築助成金の交付



北川 久二 議員

人口の減少に歯止めをかけ、活気あるまちづくりの実現のため、若者定住支援事業助成制度が定められた。

助成金の交付申請と町内業者の元請け件数は、助成制度の周知方法はどのようにしているのか。グリーンヒル多賀ではどの程度新築され、助成制度の活用状況は、また、多賀町外からの居住者はどれくらいか。

周知の方法については、広報だが、町のホームページに掲載し、家屋評価時においても、チラシを配布している。

新築件数は、23年度が19件、24年度が28件、合わせて47件で、うち11月現在で、13件の助成金の申請があった。

町外からの居住者数については、現時点では把握できていない。



グリーンヒル多賀

各集落の防犯灯のLED化は

蛍光灯と比べ消費電力が少なく、省エネ・長寿命や地球温暖化防止の観点から、各集落に設置されている防犯灯などを

工業団地の整備に係る県負担は —町長— 現在、県と協議している



富永 勉 議員

ED電球に取り替える費用の一部を補助しているが、申請件数の状況はどうか。今年度の補正分と25年度以降の取り組み方針は、**できる限りの支援を町長**

現在、予想を超える247基の要望をいただき、省エネや長寿命化に加え、環境保護や地球温暖化防止に對する意識が高まり、LED化を後押ししたものと考える。地域の安全・安心を応援し、今後もできる限りの支援をしたい。



着々と進む工場建設(多賀第2工業団地)

15年12月に前滋賀県知事は、ダムは必ず造りますと水没予定地域住民の方に頭を下げ言われた。しかし、ダム反対の知事が当選され、ダム中止

水没地域集団移転の土地代、金融機関からの利子代、国道から予定地までの道路整備費などの経費のうち、県からいくら入金されているのか。

債の利子分、路線バスの回轉場などを含むと、約6億5千万円である。町単独事業を除くと約6億2千万円で、うち4億円はエフベイカーへの土地売却分。残り2億2千万円のうち、県に負担いただく額を協議しているところである。



原田 亀雄 議員

次年度予算の編成方針と重点施策は 高年齢者・子育て支援と 教育の充実を

—町長—

第5次多賀町総合計画は、3年目を迎え、各部門の実施計画も軌道にのりつつある。また、広域総合計画とも云える湖東定住自立圏共生ビジョンでも、各分野で本格的に事業が具体化され、今後の町政の方向性を定める重要な年度になる。

町長

このようなことを踏まえ、次年度予算の編成方針と重点施策は、規律ある財政運営を堅持し、将来負担の軽減を図りながら総合計画で掲げている自然と歴史・文化に包まれたキラリとひかるまちの実現を図るための予算編成をしていきたい。

また、地域経済、地場産業の活性化、さらに東日本大震災などの経験を踏まえた防災対策、環境対策の強化に重きを置き、予算の配分を図りたい。

教育長

湖東定住自立圏と一部事務組合での事業も公共交通や環境、情報処理、ゴミ・し尿、斎場の施設改修など負担を伴う事業もあるが、地域圏域の構成員としての責任を果たしていきたい。

また、地域経済、地場産業の活性化、さらに東日本大震災などの経験を踏まえた防災対策、環境対策の強化に重きを置き、予算の配分を図りたい。

学校トイレ環境の整備を



中学生の土曜講座

重点施策としては、講師や支援員の配置、土曜講座の開催、言の葉教育の推進、図書の実験活動の企画、給食、スポーツ活動の充実などで、学校・園が、家庭や地域と力を合わせて重要度を考えながら推進していきたい。

全国平均で約30%もいるようである。家庭では、洋式便器を使用している反面、学校のトイレは、未だ和式の便器が多く、家庭とのトイレ環境の違いから、学校のトイレに苦手意識を持ち、排便を我慢してしまう子どもが増えている。

計画的に 順次進める

教育長

現在、町内の小中学校の洋式便器の占める割合は、約40%が洋式便器である。今後、順次計画をたて洋式を増やしていきたい。



整備された他校のトイレ環境

空き家の活用と管理方法は 空き家バンクの制度化を

—企画課長—



山口 久男 議員

町は、空き家の除去支援事業に取り組んでおり、補助金の交付要綱を定めた。条例化については近隣市町の動向を見ながら検討していく。

愛のりタクシーの見直しは

町内各字で空き家が増えている。草木が繁茂し倒壊の危険もある。空き家の現状と今後の予測は、空き家の活用方法は、空き家の管理方法を条例で定める考えは、

企画課長

町内には150軒の空き家がある。今後も増加すると予測され、調査を継続していく。町は、今年度中に空き家バンクを制度化する。入居可能な空き家は紹介し定住促進につなげたい。

愛のりタクシーは、高齢者や障がい者の移動手段として、利便性を向上させるべきとの声がある。停留所の増設や変更は、所得の少ない高齢者や高校生の通学などに割引制度を設ける考えは、多賀町独自の公共交通システムをつくる考えは、

企画課長

地元から停留所増設の要望があがっている。協議の場を設けて検討する必要があると考える。

障がい者と子どもの料金を半額にしている。現時点では割引を設けることは困難。民間事業者の取り組みを活用することで移動手段を確保していく。町独自の交通システムを検討することは難しい。

水道施設の耐震化は

国は、水道施設の耐震化促進に対して、国庫補助を拡大した。水道施設の耐震化率は、水道施設の耐震化について今後の計画は、

地域整備課長

町内の耐震化は、10%前後でまだまだ低い。国庫補助の対象は配水管のみで、家庭への配水管には適用されない。

県道多賀醒ヶ井線の整備は 県に強く要望していく

—町長—

菅森 照雄 議員



多賀醒ヶ井線の道路改修

県道多賀醒ヶ井線は、芹谷地域の生活道路である。ダム建設中止後も費用対効果を理由に整備が進まない箇所がある。県の道路アクションプログラムは、5年目の見直し時期がきている。住民が安心・安全で暮らしていくために、県のプロگرامに採用されるよう強く要望すべきだ。

町長の見解は、県の道路アクションプログラム見直し作業の現状は、

芹川の土砂除去の対応は、

この県道は、芹谷地域

町長

この県道は、芹谷地域

町の住民の皆様の重要な路線である。ダム建設中止後に県が示した計画では、河内安養寺付近までの整備となっている。

町は、落合集落までの整備が必要と考え、県に強く要望していく。

県は、各市町の要望を評価基準によって点数化している段階だ。

地元との地域ワークも開かれる予定である。豪雨により土砂の流れ込みがあり、河床が上昇し、河川の氾濫の危険が高まっている。県に強く要望していく。

コンピューターシステムの 見直しを システムの共同利用を検討

—企画課長—

竹内 薫 議員



企画課長
現在、経費削減や業務の効率化を図る目的で、グループウェアシステムと総合情報配信システムの共同利用を行っている。今後も経費削減を図りたい。

文化・スポーツ施設の無料化を
文化・スポーツ施設は、健全なる青少年育成、他



滝の宮スポーツ公園

コンピュータシステムの委託料が高額であり、直ちにシステムの見直しが必要と考えるが。

受益者負担が原則
世代の生涯学習やふれあいの場であると思う。町民の誰もが、気軽に利用できるために、施設の無料化は図れないか。

生涯学習課長
施設の利用に当たっては、それぞれに使用料が定められており、受益者負担の原則に基づき、利用の対価として負担いただいている。

文化・スポーツ施設は、健全なる青少年育成、他
施設を利用する人もいない人も、負担の公平性を確保する必要があることから、利用者には適正な負担をお願いしている。

愛のリタクシー料金は妥当か 利用率を高め健全な運営に

—町長—

川岸 真喜 議員



愛のリタクシーは、高齢者の移動を支えるものでなければならぬ。利用状況はどうか。大きな病院まで往復1600円という金額は妥当か。

町長
今年度は3系統で延べ2143人。昨年度に比べ2・7倍の伸びを示している。利便性の向上に努めた結果だと考える。愛のリタクシーは、公共交通空白地の解消、外出機会の創出、買い物支援などに大きく貢献している。

介護予防教室の参加費を無料に
川相生活改善センターで介護予防教室が始まった。参加状況はどうか。参加費は1回1000円(食費含む)。月4回参加すると4000円になる。介護予防部分だけでも無料にできないか。

福祉保健課長
毎週10名前後が参加されている。声かけに努め参加者を増やしたい。高齢者の介護予防、閉じこもり防止につなげていく。

一割負担を原則としている
町長
介護予防事業はふれあいの郷、門前町デイセンター、川相生活改善センターの3カ所で開催されている。料金については介護保険事業のサービスを受ける際の一割負担と同等の負担と考え、一回500円に設定した。

避難経路をバリアフリーに
町内各字に災害時避難場所の表示がない。避難経路も含め、高齢者が安全、確実に避難できる環境づくりが求められる。避難場所を表示する計画は。手すり、スロープなど、避難経路をバリアフリーにする計画は。

総務課長
各字集落内の避難場所の表示看板は、行政が設置する考えはない。

町長
集落内道路の改修・改善については、町が助成制度を設けている。各集落でのまちづくりの一環として利用していただきたい。

山間集落の獣害対策は
野菜づくりを楽しみにしている高齢者は多い。しかし、山間地域では菜



安全対策が待たれる林道上山線

芹川の堆積物の除去は 再度県に要望

—地域整備課長—

田畑 喜久弘 議員



河川の流れを良くすることは、流域住民の生命財産を守り、安心していただくために必要なことである。

26年春まで通行止め
開通はいつごろか。

地域整備課長
9月の台風により三重県側で、4ヶ所大きな災害が発生し、25年春から年内中に工事を完了する予定と聞いている。冬季通行止めも含め、開通は26年春になると思う。

今後の水谷彦根線の見直し
県道水谷彦根線は、ダム計画のため手つかずの状態であった。近年需要も高まり、今後の予定は。

四ツ谷の通学路は
町道多賀高宮線の四ツ谷地先名神ガード下での通行の危険性が指摘されているが。

地域整備課長
近日中に、測量設計が行われ、順次用地買収、道路改良に着手し、27年度末完成と聞いている。

地域整備課長
現地の状況は把握しており、県にはすでに要望を行っている。

産業環境課長
シカの駆除は11月末で692頭。その8割が山間集落で実施された。町は、高齢者の小規模農地を獣害から守るために補助金を創設した。防護柵の設置に利用されている。また農地周辺に野生動物が生息しにくくするために樹木を伐採する「緩衝帯」設置にも取り組んでいる。

林道上山線の安全対策は
土砂の除去と安全対策が一向に実施されていない。対策を急ぐべきだ。

町長
管理には努めている。生活道路でもあり、維持管理・安全対策とも地元の見解を基に進めていく。

交通安全標識の設置は 公安委員会へ要望する

—総務課長—



土田 一善 議員



いばり 動橋のT字路(大字多賀)

総務課長
動橋のT字路のカーブミラーについては、町道多賀月ノ木線の道路改良の完成に合わせて設置したい。道路標識は県の公安委員会が設置するもので地元の意向も踏まえ、要望を続けていく。

地域整備課長
動橋付近の一部は補修を行うように指示をした。その他の箇所でも同様の問題がないか早急に点検を行い、予算の範囲内で補修を行っていく。

早急に点検を行う

町道補修を
多賀小学校の通学路(動橋付近)の町道には、水道工事の際にできた路面の凹凸が目立つ箇所がある。雨天には水たまりができ、児童の通学に支障をきたしている。すぐに補修できないか。

町道補修を

多賀小学校の通学路(動橋付近)の町道には、水道工事の際にできた路面の凹凸が目立つ箇所がある。雨天には水たまりができ、児童の通学に支障をきたしている。すぐに補修できないか。

冬季の除雪対策は万全か
積雪時には車道が優先して除雪される。歩道の除雪は後回しになる。歩道の除雪対策は。

教育長
給食は大変好評で、健康の増進が図られ、正しい食習慣が身につけている。栄養面でもバランスの取れた献立を作成している。家庭弁当は親子の絆を深める点では意義があるが、家庭によって差が生じる可能性もある。学校給食をより充実させていきたい。

給食をより充実させる

給食に家庭弁当の日を
町内の教育施設では給食が実施されている。しかし家庭弁当の良さも忘れてほしくない。週1回家庭弁当の日を設けてはどうか。

給食に家庭弁当の日を

町内の教育施設では給食が実施されている。しかし家庭弁当の良さも忘れてほしくない。週1回家庭弁当の日を設けてはどうか。

猫の糞の処分対策は
猫の糞で子どもたちの遊ぶ砂場が使用不能になっている。猫の場合、犬のように捕獲処分ができません。

担当課と協議する
歩道の除雪は、行き届かず、子どもたちは車道を歩いているのが現状。危険な状態であると認識している。関係者と通学路の安全性を点検し、地域整備課と協議していく。

担当課と協議する

野良猫対策を図る
野良猫の放置は、環境衛生上問題となる可能性がある。飼い猫との区別が難しく、安易な捕獲はできない。飼い猫には、首輪などをつけて区別するよう啓発し、一方で野良猫が増えないよう県の動物保護管理センターとも相談して対策を図る。



くぼみのある通学路

備品購入は町内業者を優先に できるだけ町内業者から購入したい

—町長—



深田 治夫 議員



萱原地先の急傾斜工事

町長
消耗品などの事務用品は、年度初めに一括購入している。見積り業者は7社で、そのうち2社が町内業者である。できるだけ町内業者から購入せず、できるだけ町内業者から購入するべきである。

新採職員の現場研修を
町内の各集落にある公共施設が、どこになにかあるか、知らない職員がいる。例えば防火施設、避難場所などがどこにあるか、その場所に行くにはどのようなルートで行くか知らない職員がいるようである。もし本当なら、研修や実際に現場に行つて確かめるなど、勉強会で指導しておくべきと思うが。

各課の備品は、町外で購入せず、できるだけ町内業者から購入するべきである。町税を納めているのだからそれが当然であろう。見積りを取り、同じ品番で価格が違うようなときは、その一番安い価格で町内業者に指導し、購入発注するべきである。

町税を納めているのだからそれが当然であろう。見積りを取り、同じ品番で価格が違うようなときは、その一番安い価格で町内業者に指導し、購入発注するべきである。

新採職員の現場研修を

町内の各集落にある公共施設が、どこになにかあるか、知らない職員がいる。例えば防火施設、避難場所などがどこにあるか、その場所に行くにはどのようなルートで行くか知らない職員がいるようである。もし本当なら、研修や実際に現場に行つて確かめるなど、勉強会で指導しておくべきと思うが。

インフルエンザ予防の助成は
インフルエンザの予防接種については、高齢者と障がい者手帳1級程度の方に費用助成がある。障がい者の中には費用の助成がない方もいる。町として費用助成は。

町長
予防疫種法に基づく定期予防接種の対象者には費用の助成がある。65才以上の高齢者と重症化の恐れがある者とされている。現行の範囲を超えての費用助成は難しい。

インフルエンザ予防の助成は

町長
予防疫種法に基づく定期予防接種の対象者には費用の助成がある。65才以上の高齢者と重症化の恐れがある者とされている。現行の範囲を超えての費用助成は難しい。

急傾斜地の雪崩防止を

萱原地先で急傾斜地崩壊対策工事が施工された。町道の法面と民家の間が非常に狭いが、問題はないのか。積雪時の雪崩防止策雪止めが必要では。

生涯学習課長
表彰については顕彰要綱に基いている。被表彰者の活動が同一の場合は、最初の表彰後3年を経過していることを条件としている。

生涯学習課長
表彰については顕彰要綱に基いている。被表彰者の活動が同一の場合は、最初の表彰後3年を経過していることを条件としている。

生涯学習課長

生涯学習課長
表彰については顕彰要綱に基いている。被表彰者の活動が同一の場合は、最初の表彰後3年を経過していることを条件としている。

スポーツ表彰の基準は

スポーツで活躍した児童生徒を表彰する際の基準はあるのか。活躍しているも表彰されない生徒もいる。

スポーツ少年団の表彰

モノづくりの原点

滋賀工場 副工場長

北田 功

日本経済が飛躍的に成長を続けた1964年、当社は、大阪深江橋で創業しました。それから約半世紀、日用品・家電・自動車用部品・医療機器とあらゆる分野にわたり、精密プラスチック金型を供給しています。

時代の変化とともに、工業製品はさまざまな技術革新を遂げました。工業製品の品質や生産性を左右する「モノづくりの原点」と言われる金型もそれらの数多くの成果を



坂本金型工作所 滋賀工場

取り入れながら先端複合技術として成長し、幅広い市場の要望に対応してきました。

近年、その金型を取り巻く環境は大きく変化しました。かつては世界一と言われた日本の金型も今や海外との厳しい競争にさらされています。

1997年操業の滋賀工場では、豊かな緑に囲まれた快適な作業環境を整えとともに、最新鋭の設備を配備し、世界と競える生産体制を構築しています。

工作機械の精度が上がっても、より良い金型を作るには熟練の知識と経験が必要です。

多賀町とその近隣で育った若者に、この技術を継承し、日本のモノづくりの未来を託し、豊かな国づくり・地域づくりに貢献すること。坂本金型は、次世のKANAGATAづくりを見つめています。

発行 / 多賀町議会
編集 / 議会広報担任委員会

第12回 たがととも尼

株式会社 坂本金型工作所 滋賀工場



野球チーム「ATRANANDOM」

17年目の多賀町

滋賀工場 統括課長
森松 雅美

当社滋賀工場も今年で操業17年目になります。

本社のある大阪から赴任した私は、雪の深さに驚き、冬が過ごせるのだろつかと要らぬ心配をしたことを思い出します。

彦根・長浜が日本の中近世を華やかに彩った舞台とするならば、多賀町

は厳かな日本の原始の舞台です。

多賀大社・河内風穴・アケボノゾウの化石など日本の歴史の原点を日常の景色として見ることができます。

そんな多賀町で、人としての原点を忘れずに、地域の一員として貢献していきたいと思えます。今後ともよろしくお願ひします。

編集後記

多賀町初のプロ野球選手が誕生した。則本昂大選手の笑顔が小誌の表紙を飾る。

厳しいプロの世界でも、堂々とすがすがしいプレーで、見る者を楽しませてほしい。

明るいニュースをもちょう。今年も明るいいニュースがたくさんあるといい。

二月三日は節分だ。節分を境に、季節は冬から春へと向かう。

野菜づくり、散歩、グラウンドゴルフ、生涯学習など外に出て、新しい何かを始めたい。

川岸 真喜記

T 522-0341 滋賀県犬上郡多賀町大字多賀324
F 0749 (48) 8126 F A X 0749 (48) 8131
有線 2-2011

ホームページ <http://www.tagatown.jp>
E-mail gikai@town.taga.lg.jp